

令和4年度 長野県小諸商業高等学校 学校評価 自己評価(最終評価)

<4段階評価>

A…達成できた B…ほぼ達成できた C…あまり達成できなかった D…達成できなかった

学校教育目標	中・長期的目標	
<p>教育活動を通して、個人の尊厳と協調の精神を体得させ、民主的な国家社会の形成者たる資質を培うとともに、専門教育により、広く国民経済における商業諸活動の担い手としての有為な人材を育成する。</p>	<p>○心身ともに健全で、人間性豊かな生徒を育てる。 ○学校および社会生活の規律を重んじる心を育てる。 ○学習習慣を確立させ、自ら学び自ら考える態度を育てる。 ○進路目標を明確にさせ、その実現に向けて粘り強く努力する姿勢を育てる。</p>	
今年度の重点目標	評価	今後の課題・改善策等
<p>基本的な生活習慣の確立および、挨拶・身だしなみの徹底を図る。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣と挨拶に関しては概ね良好である。身だしなみについては一定の成果はあるが、不十分な生徒も見られ今後も粘り強く指導を続ける。冬季の防寒対策の検討を再度行いたい。 ・感染対策をおこなった上で工夫しながら学校行事に取り組んでくれた。文化祭、クラスマッチ、合唱コンクール等において、最高学年としての自覚をもって取り組むことができた。 ・概ね、良好である。ただ、長期休業明けより指導対象となるものも複数いる。全体への注意喚起と個別指導を継続し、根気よく声掛けを行っていく。 ・多くの生徒は目標に向けて意欲をもって取り組んでいるが、当事者意識の低い生徒に対して引き続き指導の手を緩めずに丁寧に寄り添いながら継続指導していく。
<p>自ら問いを立て、その解決に向けて主体的・協働的に取り組む力を育成する。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の学校生活で、他者との対話を通じて視野を広げながら、積極的な取り組みができる環境づくりを引き続き心がけていくとともに、ビジネス探究プログラムや校内での各種活動をどのように活用していくかを検討を続けていきたい。 ・生徒それぞれが自分の進路の実現に向けて取り組むことができたが、進路決定後の気の緩みが生活態度に現れてしまう生徒もいたため、指導を続けた。 ・生徒一人一台パソコンの導入とビジネス探究プログラムの実施に伴い、グループ協議を含む多様な取り組みを実施できた。継続して、より良いものを模索していく。 ・昨年度より取り組んでいる「地域人プロジェクト」の集大成ともいえる研修旅行を終え、2月9日に小泉市長と山下教育長へのプレゼン(報告会・まちづくりの提案)を実施。多くの大人と関わり、アイデアを発信していくことが今後の課題と捉える。
<p>地域社会との連携や協働による活動を通し、探究的な学びを推進する。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスの影響もあり、積極的に地域と連携することはまだできていない。しかし、市のイベントへの協力依頼を受けた際には市役所職員、小諸高校生徒会と共に協力し企画できた。また、JRC部からの依頼で市のボランティアを積極的に行った。

<p>学習活動や様々な行事等へのICTの積極的活用、および知見の共有を推進する。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況を踏まえ、体験入学では学科説明会等をリモート配信し、中学生は各教室で視聴した。1学期には全校一斉オンライン授業の実施、2学期終業式、3学期始業式をオンラインで行った。職員会資料をデータで閲覧できるよう、ClassRoomの活用も行っている。 ・文化祭では急な変更であったが、昨年度までの知識をもとに更に発展させてICT機器の使用を積極的に行った。リモートでのデメリットなど反省点はあるが、徐々に慣れてきている。 ・コロナウイルスの影響もあり、生徒、教員ともにICT活用スキルが向上している。 ・職員研修を実施し、全職員がオンライン授業に対応できるようになった。 ・今後も生徒、職員の声聞きながら機器の整備や、研修を実施したい。
<p>生徒一人ひとりの人権を尊重し、いじめ・体罰等のない、安心・安全な学校をつくる。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後もいじめ悩みアンケートやアセスを実施し、今後活用する。 ・新型コロナ感染による誹謗中傷や差別問題を人権学習の機会と捉え、学校独自の啓発ポスターを作成掲示・ホームルームで取り上げなどの活動を行った(8.26)。今後は生徒相談係と連携した取組みを考えて行きたい。 ・SSTやスマートフォン講座を早々に実施した甲斐もあり、大きなトラブルはない。次年度も、授業やホームルーム活動等を通して、他者理解や違いを認めることを継続的に遂行していく。 ・学年集会や学級などで呼び掛けてきた。生徒からの相談に対しては関係職員と協力しながら対応できた。 <p>友人関係の築き方、コミュニケーションの取り方などで悩みを抱える生徒が存在する。個々の状況を踏まえ、丁寧な相談・指導を継続していく。</p>

【係・委員会】

係等	今年度の重点目標	具体的な方策	評価	今後の課題・改善策等
教務	円滑な学校運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・長・中期的な見通しを立て、計画や実施方法を具体化し、全職員で共有、各係と有機的に連携しながら学校運営を行う。 ・新型コロナウイルス感染症などに伴う日課変更、オンライン授業などの措置に対して、生徒の安全・安心および学びの補償を最上位目標に据えて、迅速にかつ混乱を避けるよう的確に行う。また、変更に伴う学事文書関係の整備を同時に行う。 ・2026年度開校小諸新校への統合に向け、内規や学校行事などの精査を行う。また、商業科高校のビジョンを確立し、統合後も生き続ける商業科マインドを全職員が共有できるようにビジュアル化する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間での情報共有を行うため、コロナ状況確認本部を設け、全職員が現状を把握できる体制を敷いた。 ・対面、紙ベースの会議から、オンライン、データベースの会議のハイブリットの可能性を模索してきた中で、電子データによるペーパーレス(ClassRoomへのパスワード付データの投稿)の職員会の定着はできた。 ・3つの方針、グランドデザインのブラッシュアップ、スクールミッションの作成に向け、全職員が対話的で協働的な商業科の魂づくりに参画できる機会をCoSMOという形で2回実施した。これからグラジュエーションポリシーの作製を柱に、カリキュラム、アドミッションへと具体化させていく予定。 ・小諸高校と連携を取りながら、新校内規、分掌骨子案、年間行事案等の作成を進めている。
	広報活動の充実と生徒募集対策	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学、授業公開、クラブ体験、入試説明会などを、状況を鑑みながら円滑に実施できるように計画、実施する。 ・中学校訪問や体験入学などでの内容を精査し、商業の魅力や価値を発信して「伝わる」「行動させる」よう工夫を講じる。 ・統合を見据えて、また商業科の魅力や強みを中学生・保護者に分かりやすく伝えるための学校パンフレットの作成、並びに有効的な配布方法を工夫する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入学の実施に至るまで、コロナ感染状況、高校野球の勝ち上がり、天候等、その都度の変化に対応した。教務係、各主任、管理職、事務とその都度連携しながら最適解をたどることができた。体験入学当日、生徒会の生徒達も運営補助および授業サポートに入り、中学生からの印象も良かったことがアンケートからも伺えた。クラブ体験、受験生対象入試説明会、教員対象説明会も滞りなく実施できた。 ・中学校への訪問案内を商業科が作成し、中学校への訪問等の問い合わせも教校頂き、実際に中学校に赴き小規模での説明も実施できた。 ・学校パンフレットを一新した。内容を精査し、見やすく分かりやすいに仕上がった。一緒に未来を創っていくとの思いを込め、Co-morrowをテーマに生徒の描いたポップな表紙も今までにない取り組みとなった。
生徒指導	登下校中の安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導により交通ルールを徹底させる。 ・自転車通学者に交通安全を定期的に啓発する。 ・自らの命の大切さと他者への安全配慮を徹底する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導で継続しておこなう。 ・大きな事故は起きていないが、啓発の継続に努める。 ・各HRや全校集会などで注意喚起をおこなう。
	身だしなみの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・家を出る時から帰宅まで身だしなみを崩さない指導と助言を行う。 ・オフィシャルウェアとプライベートウェアの違いを理解させる。とくに式典時の身だしなみ指導を徹底する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ネクタイ・リボン、スカートの正しい着用ができない生徒がいるため、身だしなみ指導の徹底を粘り強くおこなう。 ・一部で改善の必要がある。継続的に理解を深めるよう指導を行い、正しい身だしなみで生活できるようにする。冬季の防寒対策の検討が必要。
生徒会	主体性、協調性を持たせ、積極的に委員会活動へ参加させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動の意義と各委員会の役割を理解させ、自覚と責任をもって仕事に当たらせる。 ・受け身ではなく、自ら出来ることを考え、実行していけるような積極性と責任感を持たせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね責任のある立場ということを理解できた。しかしながら、自身の立場を考えられず身だしなみ等の徹底のできない役員がいるため常日頃から声掛けが必要だと感じる。 ・考えることだけでなく、自ら考えたことに責任を持ち実行していけるように指導を継続する。
	各種行事に全力で取り組み、一つ一つの行事が役員だけでなく全校生徒が満足のいくものとなるよう努力する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事については、全校生徒が「与えられて」行うのではなく、全校生徒で「作り上げて」いけるようなものとなるよう工夫させる。 ・行事の企画運営に関し、リハーサルの徹底にこだわり本番さながらの準備ができるよう、適切な助言・指導を行う。 ・各種行事ではコロナウイルスの感染状況により、急な変更にも対応できるよう、日頃よりICT機材の準備に慣れさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での行事も少しずつ通常に戻りつつあるが、通常の行事を知らない生徒なので今まで以上に事前の打ち合わせ等をする必要がある。 ・リモートでの対応があったため機材の取扱については少しずつ慣れてきている。

進路指導	生徒の進路意識の熟成と自己理解の深化	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃より情報収集に努め、様々な経験を通して生徒が自分の生き方を考えられるような進路行事を企画する。 ・上級学校と連携した出前授業や特別講座を積極的に取り入れ、個々の生徒の成長を促す。 ・企業の雇用情勢や業務内容に注目をさせ、仕事への適性について考えさせる。 ・高大接続改革に向けて情報収集をするだけでなく、共有の場を設け、受験に対する指導体制の構築を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・現実的な視点に立ち、将来を模索する機会となるように校内企業説明会を企画した。開催後の振り返りを大切にし、今後につなげていきたい。 ・目的意識が向上し、主体的に学習に取り組めるように、生徒にとって効果的な外部講師による講座を検討していきたい。 ・就職支援員による雇用情勢や本人の適性についての面談や面接試験対策が職業意識の向上につながっている。引き続き、支援員と協力しながら適切な指導・助言を行えるよう心がけたい。 ・高大接続改革による生徒への影響を考えながら、早めの対応ができるように情報収集を行い、指導体制の整備をしていきたい。
	基礎力診断テストの有効活用と基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対するの動機付けおよび意識付け、職員への情報共有を行い、より有効な活用方法を模索する。 ・基礎学力定着のための学習計画の立案と実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・付随する事前学習教材を該当教科の授業で取り扱うことで、生徒の学習意欲に結び付け、基礎学力定着に向けてのきっかけづくりができた。 ・基礎力診断テストまでの学習計画を明確にし、情報共有を心がけたい。
図書	生徒の教養・知識の育成と学習センターとしての役割	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用の促進を図る ・図書委員の指導 ・図書の貸し出し返却の手続き・貸し出し期限の厳守 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・統合に向けて蔵書の分類整理の徹底と館内と書庫の廃棄など環境が整えられた。 ・委員の当番活動の徹底を促す。 ・5月25日から朝読書を実施することができた。
	必要な情報を収集、選択、活用する能力育成のための情報センターとしての役割	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書の配分比率に即して本を収集する ・購入希望調査 ・図書館教諭・司書の研修会参加 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、職員からの希望に応え、図書館利用が促進された。 ・近隣の図書館ネットワークを利用し、授業で活用する資料を集めることができた。
	読書を楽しみ、想像力と豊かな心をはぐくむ読書センターとしての役割	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動を積極的に行う ・他校との交流 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便りを定期的に発行し、生徒、職員、保護者に情報を発信した。 ・朝読書の事前連絡を徹底し、本の準備を促した。 ・佐久高等学校図書委員会はコロナ感染レベル5のため中止となった。
整美	校舎内外や学校周辺地域の環境美化に取り組む。	清掃用具を整備して各自が清掃活動に参加できるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各清掃分担場所の清掃用具の点検や要望等を聞きながら、不足している用具を整備した。学校周辺の地域の環境美化の取り組みが今後の課題となっている。
	ゴミの分別の徹底を図る。	各クラスやゴミ集積所で、美化委員により呼びかけを繰り返す。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・分別は定着してきている。今後もゴミの分別やゴミの減量化を繰り返し呼びかけていく。

ICT 視聴覚	学習活動へのICTの積極的活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク環境を活かせるよう必要な機器を導入する オンライン授業を実施するためのICT環境整備を行う GIGAスクールサポーター、職員による研修会を実施する ICTを活用した観点別評価の推進に努める 	B	<ul style="list-style-type: none"> 不足していたキャビネットの整備、機器の配備などを行った。 職員研修会を実施し、全職員がオンライン授業に対応できるようになった。 今後もGIGAスクールサポーター等も活用しながら、機器の導入やメンテナンスをおこなう。より一層ICT活用スキルアップを目指したい。
	生徒会活動などにおける適切な放送運営	<ul style="list-style-type: none"> 各種行事については、生徒が主体的に行動できるよう日頃から機材等の取り扱いを指導する。 本部役員とも連携がとれるよう適切な助言を行う。 各種行事ではコロナウイルスの感染状況により、急な変更にも対応できるよう、日頃よりICT機材の準備に慣れさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の放送や行事における放送も計画通り実施することができた。 新型コロナのため予期せぬ動きになった際も対応することができた。 次年度も計画的な活動ができるよう指導を心がける。
PTA	PTA活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 厚生委員会 「PTA講演会」の企画 教養・生徒指導委員会 「朝の声掛け指導」で生徒とふれあう年2回発行「PTA会報」の内容充実 「PTA同窓会講演会」の企画 	B	<ul style="list-style-type: none"> PTA講演会は新型コロナ感染拡大のため中止した。 「朝の声掛け指導」は例年通り実施した。 「PTA会報」は予定通り年2回発行した。 PTA総会は理事会に代替、学年学級PTAは縮小して実施した。 PTA同窓会講演会は生徒とPTA役員のための参加とし、一般会員への呼びかけは行わなかった。
	学校に足が向くPTAづくり	<ul style="list-style-type: none"> PTA講演会・総会・学年学級PTAへの参加呼びかけ スマイル小商店街・合唱コンクールへの参加呼びかけ PTA同窓会講演会への参加呼びかけ 	B	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会は理事会に代替、学年学級PTAは縮小して実施した。 PTA同窓会講演会は生徒とPTA役員のための参加とし、一般会員への呼びかけは行わなかった。
人権 平和	<ul style="list-style-type: none"> 社会的弱者とされる障害を持つ方や高齢者、女性、また同和地区出身者や外国由来の方など様々な立場の人々のおかれた状況や想い、生活課題などを知ることを通して、自立した人間として他者によりよく共生できる感性と態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒対象の人権の映画観賞会を実施する。 他の係と連携をとり、人権意識の向上、道徳教育の推進に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 10月に全校人権映画鑑賞を行ったが、コロナ対応の関係で2会場に分かれて実施した。アニメ作品で、生徒にも理解しやすい内容であったこともあり、概ね好評であった捉えている。 次年度は「学校や社会への適応」について検討すべく他の係(生徒相談等)と連携を図りたいと考えている。
	<ul style="list-style-type: none"> 研修旅行などの行事を通じて、被災された方々の労苦に想いを馳せると共に、防災・減災に対して学びを深め、地域社会の担い手としての意識を高める。また授業やその他の行事を通して、戦争の悲惨さを知ると共に平和の大切さを学び、主体的に平和を構築できる意欲と態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修旅行の事前学習や各学年行事など学年とも連携して、安心して生活できる環境(防災や平和への意識)の有難さを認識させる。また授業などで各教科とも連携し、生徒が戦争の悲惨さや平和の大切さを継続して意識できるよう、配慮する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 社会科の授業で、3年生は地歴で「ロシアのウクライナ侵略」について扱い、地理で小諸の被害を含めた「防災学習」を深く扱った。また2年生は世界史で研修旅行の事前学習を行い、訪問先の過去の災害事例を取り扱う中で、防災意識を喚起することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 生命の大切さや人間としての尊厳を意識させあらゆる差別やいじめ、不正を排し、自他を尊重できる実践的な態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各係と連携し、命の大切さの意識や新型コロナウイルスの感染などから生ずる差別やいじめなどを許さない意識や態度の育成指導を、適宜適切に行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ感染に関連してのいじめ防止啓発ポスターを掲示した。今後もその時々具体的な社会問題等を取り上げ、学習を深める機会にしていきたい。

保健	日常生活の中で健康を意識し、 自他ともに健やかで安全な生活が送れる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室来室時に適切な処置、指導を行う。 ・ほけんだよりを月に1度発行、掲示物の活用を積極的に行う。 ・生活習慣等、生徒と接する中での気づきを指導の中に取り入れる。 ・感染症対策・教育を徹底し、自らの健康を意識し、適切に対応で 	A	・コロナ化の中で、ほけんだよりの発行、学年団の連携を取りながら、今後もしっかりやっていきたい。コロナ以外の分野も充実させたい。
	心理的に不安を抱えている生徒の把握と支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室来室時の聞き取り、経過等の観察、生徒の気持ちを尊重した支援を行う。 ・担任や生徒相談係など、各係との連携を日ごろから行う。 ・地域の関係機関と密に連携を取り、家庭を含めた支援に繋げる。 	A	・このまま継続して、対応していきたい。
	健康に関する知識を持ち、 自己決定や判断ができる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全体での保健講話を年に1度は設けるなど、学年が持つまたは求める保健課題に沿った保健指導を行う。 ・必要に応じて他科目との連携を行い、指導をする。 	B	・集会が可能な状況となれば、薬物乱用防止の講演会を実施したい。
同窓会	学校や生徒のニーズに合った講演会の計画・実施	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い同窓会(PTA共催)講演会を企画する。 ・学校、生徒の要望を正確に捉え、同窓会として応えられることを行っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA同窓会講演会を企画し実施した。本年度はPTA係が主担当となって実施したため、同窓会係としては出席者の確認等運営面のサポートを実施した。 ・同窓会事務局と協力し、同窓会報の発行など連携して行った。
生徒相談	いじめ・悩みを抱えた生徒及び特性を持つ生徒の 把握と適切な対応・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・アセス、「いじめ・悩みに関するアンケート」実施 ・生徒相談委員会、学年、学級担任、保健室との連携 ・SC、SSW、巡回支援指導員の活用 ・教育相談調査票の実施と活用 ・支援会議の計画・実施 ・支援に必要な情報提供 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回のいじめ悩みアンケートやアセスを実施したが、実施の仕方や結果の活用やの仕方を工夫する。 ・3学年への自殺予防に関しては、スクールカウンセラーの先生に依頼することができた。 ・支援会議やSC、SSWの活用に関しては適宜行っており、今後も必要に応じて行っていく。
	いじめ防止及び自殺防止に関する生徒、職員への 研修	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒の実態に即した学年ごとの研修の実施 ・職員への情報提供と研修 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の自殺予防に関する研修会はカウンセラーの先生に依頼することにより、専門的に話をさせていただくことができた。 ・係が受けてきた研修に関しては必要に応じて職員に提示していく。

【学年】

係等	今年度の重点目標	具体的な方策	評価	今後の課題・改善策等
3学年	<p>・様々な学校行事において積極的に取り組む姿勢をもたせ、最上級生としての自覚と誇りを育む。</p>	<p>・生徒会活動、クラスでの活動や学校行事において、目的を意識させるとともに自分の役割に対する責任感を育てる。</p>	B	<p>・生徒会活動などで自主的に活動する姿が多く見られた。学習発表会、合唱コンクール等において最上級生としての自覚と責任を持って取り組むことができた。</p>
	<p>・個々の生徒に合わせた指導を行い、進路希望が実現できるように支援する。</p>	<p>・三者面談、個別面談などを通して生徒それぞれの進路に合わせた指導を行う。個々進路行事や企業見学、オープンキャンパス等、積極的に参加させ、生徒それぞれが自分の進路について真剣に考え、実現に向けて行動できるように指導する。</p>	B	<p>・進路に向けて準備に時間のかかる生徒もいたが、それぞれの進路実現に向けてしっかりと取り組むことができた。進路決定後に生活態度などにおいて緩んでしまう生徒もいたため、指導を継続した。</p>
2学年	<p>基本的な生活習慣や、集団の中での行動を通して社会人基礎力を養成する。</p>	<p>授業や学年集会などを通して、時間厳守、身だしなみについて繰り返し指導する。聴く姿勢を身に付けさせると共に、主体的に学習に取り組む習慣づけを行う。</p>	B	<p>・多くの生徒は目標に向けて意欲をもって取り組んでいるが、当事者意識の低い生徒に対して引き続き指導の手を緩めずに丁寧に寄り添いながら継続指導していく。</p>
	<p>自ら考え、主体的に行動する力を養う。</p>	<p>学校生活の様々な場面において、教員からの指示を待たずに、場所・状況に応じて何が必要かを自分で考えるように意識付けさせる。また、地域資源を活用し地域に還元できる力を身に付ける。発信力も同時に習得させる。</p>	B	<p>・昨年度より取り組んでいる「地域人プロジェクト」の集大成ともいえる研修旅行を終え、2月9日に小泉市長と山下教育長へのプレゼン(報告会・まちづくりの提案)を実施。多くの大人と関わり、アイデアを発信していくことが今後の課題と捉える。</p>
	<p>各自のライフプランについて考えさせると共に、進路意識を高め、個々の進路を具体化させていく。</p>	<p>進路ガイダンスや講演会等を有効に活用し、生徒がそれぞれの進路を具体化させるとともに、進路実現のための課題を考えさせる。また、多くの「大人」との交流も積極的に仕掛けていく。</p>	B	<p>・外部講師招聘のガイダンスは十分ではなかったが、上記の取組によって働く大人との関係はとれた。進路実現のために生徒の心を揺さぶる仕掛けをしていく。</p>
1学年	<p>自律 自ら考え、行動する姿勢を養う。</p>	<p>・挨拶、身だしなみ、時間の管理等の基本的な生活習慣の確立するため、日々の声かけを行う。 ・学習環境を整え、授業に集中できる空間を作る。そのために、生徒自身が環境整美や私物の管理をする姿勢を持つことを目指す。 ・ビジネス探究プログラムを通して、自己理解をし、自己の価値や学びの意義を見出すとともに、学習習慣の確立を目指す。</p>	B	<p>・学習環境の整美や生活習慣の確立に関しては、比較的多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。なかなか取り組めない生徒に対しては、地道な声掛け指導と担任による定期的な個別面談を重ね、指導を継続していく。</p>
	<p>協調 他者を尊重し、他者と協調する姿勢を持つ。</p>	<p>・SST(ソーシャルスキルトレーニング)などを実施し、他者と関わる基本を見直し、日々実践する。 ・挨拶や感謝の気持ちを持ち表現することを徹底する。 ・学年集会やビジネス探究プログラムによって、他者の考えを知る機会を増やし、他者理解に努める。</p>	B	<p>・SSTの実施は単発であり、なかなか継続はできなかったが、ビジネス探究プログラムや行事を通じて協働の姿勢を得るきっかけができたように感じている。ただし、人間関係に不安を感じている生徒も存在しているので、探究プログラムに変わる活動をいかに取り入れていくかが課題である。修学旅行等に向け、学年集会を中心に、指導を継続・発展させていく。</p>
	<p>挑戦 物事に前向きに取り組む姿勢を育む。</p>	<p>・学習目標を持つために、基礎力診断テストの分析を行うとともに、就職や進学に関する知識を深める。 ・ビジネス探究プログラムや検定取得を通して、挑戦する姿勢を確立する。 ・検定取得や学校生活を通して自己肯定感を高め、新たな可能性を切り拓く姿勢を養う。</p>	B	<p>・小諸市長の小泉俊博氏の講演会や信濃毎日新聞出前講座を実施した。小諸市フィールドワークやビジネス探究プログラムにより視野を広げ関心を持った内容をより発展させたい。 ・検定に関しては、前向きに上位級に挑戦する生徒を増やし、進路活動を見据えた個別の挑戦を促していく。</p>